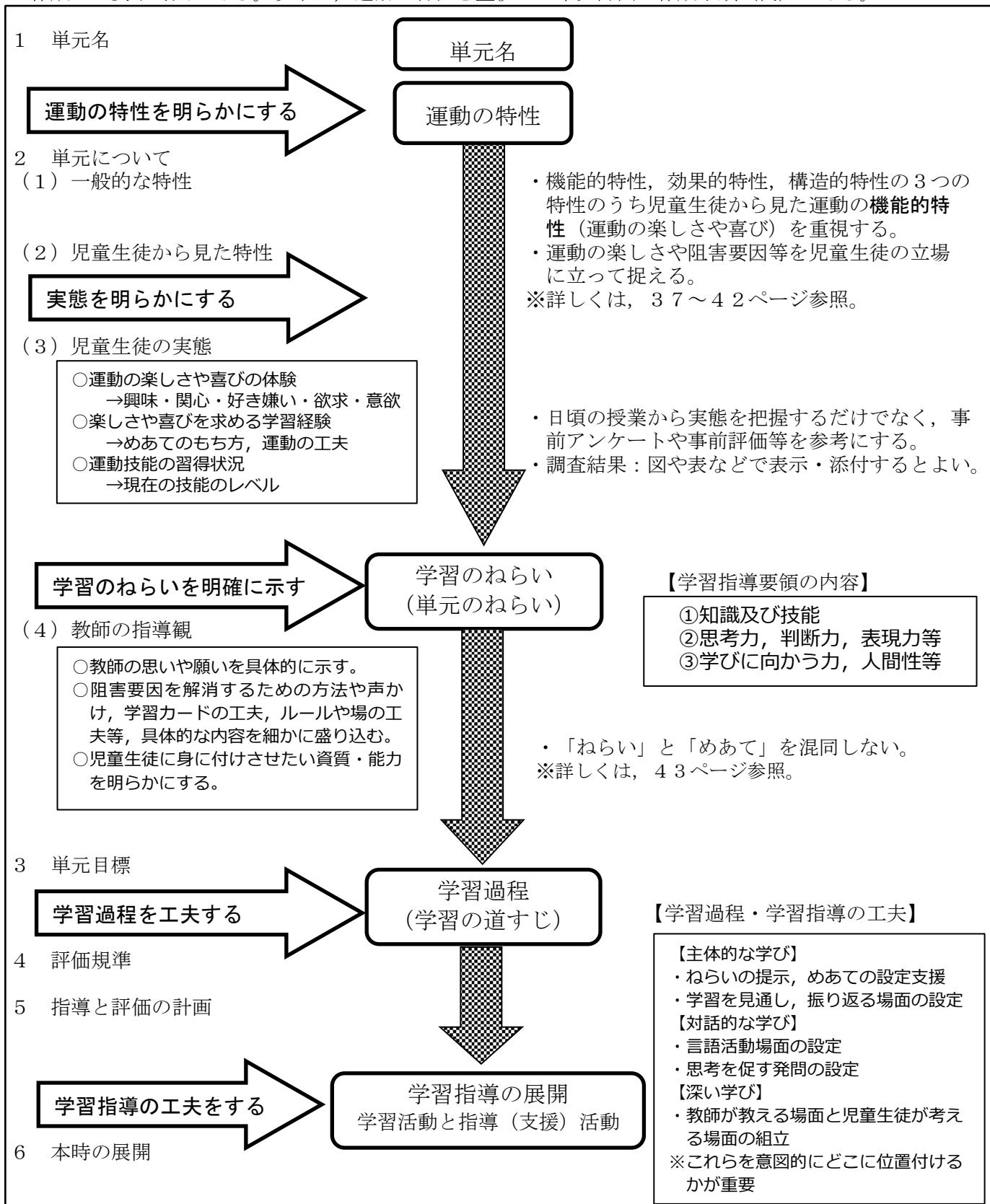


【3】 授業改善

1 単元計画の作成手順

単元計画は、年間計画に配列された一つ一つの単元（学習内容）を授業としてどのように展開していくか見通しを立てたものである。この中には「運動の特性」、「実態」、「学習のねらい」、「学習過程（道すじ）」、「学習のそれぞれの段階に応じた具体的な学習活動と指導（支援）活動」を明確に示されており、体育学習（指導）における基本構想・基本計画を共有することができ、教師側と学ぶ側の目指す方向を一致させることができるとなる。授業を充実させるためには、児童生徒が自発的・自主的な学習ができる単元計画の作成が必要不可欠である。以下は、運動の特性を重視した単元計画の作成手順（例）である。



2 運動の特性の明確化

(1) 一般的な特性

体育学習は、運動をめぐっての学習であるところに最大の特徴がある。したがって、その内容である運動の特性をどのように捉えるかによって、学習指導のねらいや方向性は異なってくる。

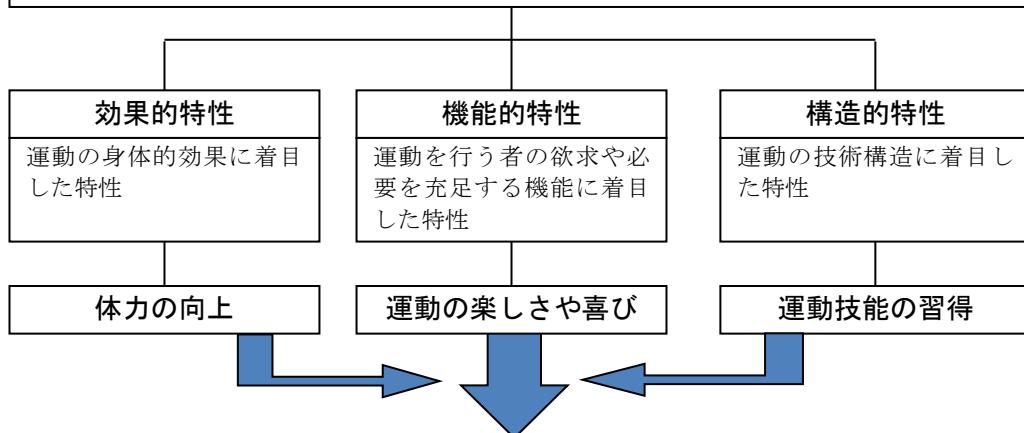
この運動の特性は、様々な視点から考えられるが、一般的には「機能的特性」、「効果的特性」、「構造的特性」の3つで捉えられており、体育では「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」観点から、この3つの特性のうち「機能的特性」を重視して学習指導を進める。

体育学習では運動を行う楽しさだけではなく、「構造的特性」を踏まえた系統的な学習により、各種の運動技能を高めて課題に挑戦したり、勝敗を競い合ったりすることから得られる運動の本質的な楽しさや喜び（その運動ならではの面白さ）を味わわせることも重要である。

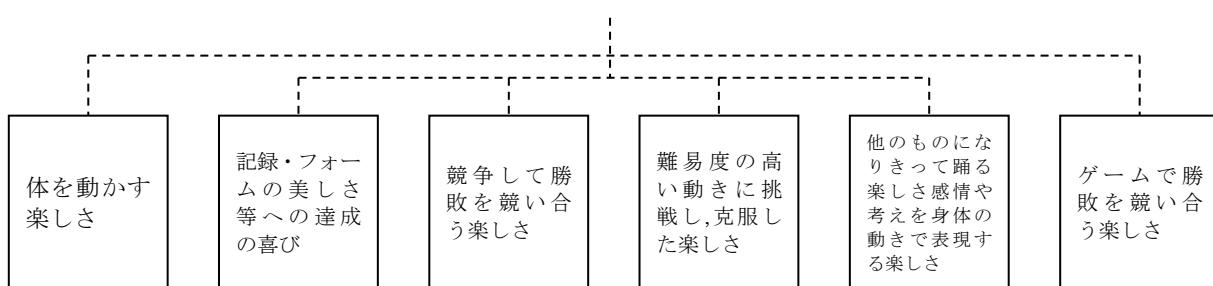
また、**学習した結果としてより一層の体力の向上を図ることができるよう**、児童生徒がその運動のもつ「効果的特性」に関わる学習についても十分に深められるよう、指導の在り方を工夫、改善する必要がある。

運動の特性

運動の特性とは、その運動がもつ特有の性質を意味する言葉であり、学習のねらいと同時に学習過程を方向付ける基になるものである。



<機能的特性から見た運動の分類>



【小学校】 体つくり運動

陸上運動系
水泳運動系
器械運動系

陸上運動系
水泳運動系

陸上運動系
水泳運動系
器械運動系

表現運動系

ボール運動系

【中・高等学校】 体つくり運動

陸上競技
水泳
器械運動

陸上競技
水泳

器械運動

ダンス

球技・武道

【児童生徒から見た運動の楽しさや喜びを重視】

↓
<単元構想>

一般的特性の例（小学校）	
体つくり運動	<p>【機能的特性】・体つくり運動は、体ほぐしや動きづくりのための様々な運動（遊び）に取り組むことにより、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】・体つくり運動は、体ほぐしの運動（遊び）と多様な動きをつくる運動（遊び）、体の動き高める運動で構成され、心と体をほぐしたり、基本的な体の動きを培ったり、高めたりすることができる運動である。</p> <p>【効果的特性】・体つくり運動は、自他の心と体の関係に気付いたり、仲間と交流したりすることや、基本的な体の動きを身に付けたり、体の動きを高めたりして体力を高めることができる運動である。</p>
器械運動系	<p>【機能的特性】・器械・器具を使っての運動遊びは、様々な動きに楽しく取り組み、基本的な動きや知識を身に付けたときに喜びを感じる運動である。</p> <p>・器械運動は、様々な動きに取り組んだり、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして技を身に付けたときに楽しさや喜びを感じる運動である。</p> <p>【構造的特性】・器械や器具を使った運動遊びは、器械や器具を使って多様な遊び方を考えることができる運動である。</p> <p>・器械運動は、器械、器具を用いて回転、跳躍、支持、懸垂、バランスなどの運動を行い、いろいろな技に挑戦し、できるようになる達成型の運動である。</p> <p>・基礎的な技をより高めたり、できそうな発展技に挑戦したりする運動である。</p> <p>【効果的特性】・様々な動きを通して、運動感覚や巧緻性、調整力を身に付けることができる運動である。</p>
陸上運動系	<p>【機能的特性】・走・跳の運動（遊び）【高：陸上運動】は、走・跳・投の基本的動作によって、自己の記録に挑戦したり、相手と競争したりすることで楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】・調子よく走ったり、跳んだりする運動である。</p> <p>・体を巧みに操作しながら走ったり、跳んだりする動きを【高：合理的に】身に付けることができる運動である。</p> <p>・体全体を大きく、素早く、力強く動かす経験ができる運動である。</p> <p>・記録を高めるために、自己の課題をもって学習することができる運動である。</p> <p>【効果的特性】・体を巧みに操作したり、体の力を最大限に出したりすることで、敏捷性や筋力、巧緻性を高めることができる運動である。</p> <p>・生涯を通じて、基礎的な運動能力や体力の維持・向上に役立てることができる運動である。</p>
水泳運動系	<p>【機能的特性】・浮く、呼吸する、進むなどの課題を達成し、水に親しむ楽しさや喜びを味わえる運動である。</p> <p>・安定した呼吸で、心地よく泳いだり、泳ぐ距離を伸ばしたり、記録を達成したりすることで楽しさや喜びにつなげられる運動である。</p> <p>【構造的特性】・水遊びは、水中を動き回ったり、もぐったり、浮いたりして水の中での運動の特性を知り、水に慣れ親しむ運動遊びである。</p> <p>・水泳運動は、背泳ぎや浮き沈みをしながら安定した呼吸の方法を伴って浮いたり、手や足の動きに呼吸を合わせながら泳いだりする運動である。</p> <p>【効果的特性】・水の抵抗を受けて行う全身運動であり、筋力、持久力、柔軟性などの調和的な発達が期待できる運動である。</p> <p>・水を媒介として重心の不安定な状態で運動を行うため、バランスなどの調整力を高めることができる運動である。</p>

ボール運動系	<p>【機能的特性】・集団対集団で競い合ったり、友達と力を合わせて競争したりすることに楽しや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><ゴール型共通>・コート内の攻守が入り交じり、ボール操作とボールを持たない動きによって、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことに楽しや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><ネット型共通>・コート上でネットを挟んで相対し、体や用具を操作しボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うところに楽しや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><ベースボール型共通>・ボールなどを媒介して、集団対集団の攻防から攻守を規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競い合うところに楽しや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】</p> <p><ゴール型共通>・ドリブルやパス、シュートなどのボール操作と、空間に走り込む、味方をサポートするなどのボール操作に至るための動きからなる運動である。</p> <p><ネット型共通>・相手コートに相対し、サービス、パス、返球のボール操作と、ボールの落下点やボール操作がしやすい空間に走り込む動きで構成される運動である。</p> <p><ベースボール型共通>・送球、捕球、打球といったボール操作、捕球の位置に移動する守備、目的の場所に走りこむ走塁からなる運動である。</p> <p>【効果的特性】</p> <p><ゴール型共通>・攻守が入り交じって、時には身体接触を伴いながらゲームを展開するので、ボールをコントロールすることはもちろん、相手や味方の動きを把握し、それに対応した素早い身のこなしが必要となるため、巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力を高めることができる運動である。</p> <p><ネット型共通>・相手の打球に応じた動きが必要とされるため、敏捷性や巧緻性を高めることができる運動である。</p> <p><ベースボール型共通>・練習や作戦を工夫することで、集団意識を高めることができる。 ・身体やボール、用具を操作して攻守を展開する動きを通して、瞬発力、敏捷性、巧緻性を高めることができる。</p>
表現運動系	<p>【機能的特性】・身近な動物や乗り物などの題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身の動きで表現したり、軽快なリズムの音楽に乗って踊ったりする楽しさに触れることがある運動である。</p> <p>・心と体を解き放し、イメージやリズムの世界に没入してなりきって踊ったり、互いの良さを生かし合って仲間と交流して踊ったりする楽しや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】</p> <p>・仲間とのコミュニケーションが必要な運動である。</p> <p>・自分のイメージや感じたことを自由に表現する探求型の運動である。</p> <p>・自由に動きを工夫して楽しむ創造的な学習を進められる運動である。</p> <p>・ひと流れの動きで即興的に踊ることと簡単なひとまとまりの動きにして踊ることで構成される運動である。</p> <p>【効果的特性】</p> <p>・自分の感じたことを表現したり、リズムに乗って全身で踊ったりすることにより調整力や持久力を高めることができる運動である。</p> <p>・即興的な身体表現能力やリズムに乗って踊る能力、コミュニケーション能力を培うことができる運動である。</p>

	一般的特性の例（中学校）
体 つ くり 運動	<p>【機能的特性】・自他の心と体に向き合って、運動の仕方を工夫することにより、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】・体つくり運動は、体ほぐしの運動と体の動きを高める運動及び実生活に生かす運動の計画で構成され、心と体をほぐしたり、体の動きを高める方法（3学年：や目的に適した運動の計画を立て取り組む方法）を学んだりする運動である。</p> <p>【効果的特性】・日常生活における健康の保持増進、体力の向上についての効果的な実践力を身に付けることができる運動である。</p>
器 械 運 動	<p>【機能的特性】・多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、できる楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。</p> <p>・今できる技をより美しく、雄大にできるようになったり、できそうな新しい技に挑戦したり、組み合わせて表現したりするところに楽しさがある運動である。</p> <p>【構造的特性】・器械運動は、器械、器具を用いて回転、跳躍、支持、懸垂、バランスなどの運動を行い、いろいろな技に挑戦し、できるようにする達成型からなる運動である。</p> <p>・安全に運動を行うための生徒相互の補助や協力を必要とする運動である。</p> <p>【効果的特性】・身体支配力を最高度にしかも効果的に身に付けることができる運動である。</p> <p>・種目や技の動きに関連して、筋力や柔軟性、平衡性などが高められる運動である。</p>
陸 上 競 技	<p>【機能的特性】・陸上競技は、走・跳・投の基本的運動によって、相手と競争したり、記録に挑戦したりするところに、楽しさや喜びがある運動である。</p> <p>【構造的特性】・自己の体力や意志を使って能力を最大限に発揮することができる。また、記録の計測によって、自己の技能の進歩を確かめながら、自らの課題をもって学習することができる運動である。</p> <p>【効果的特性】・技能の練習や競技を通して、基礎的な体力を高め、強い意志と決断力などを身に付けることができる運動である。</p> <p>・基礎的運動要素をもっており、体力を全体的に高めることができる。また、生涯を通じて、基礎的な運動能力や体力の維持・向上に役立てることができる運動である。</p>
水 泳	<p>【機能的特性】・クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなどの泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだり、競い合ったりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】・水の物理的特性である浮力、抵抗、水圧などの影響を受けながら、浮く、呼吸をする、進むというそれぞれの技術の組合せによって成立している運動である。</p> <p>【効果的特性】・水の抵抗を受けて行う全身運動であり、各泳法に関連して瞬発力、全身持久力などが高められる運動である。</p>
球 技	<p>【機能的特性】</p> <p><ゴール型共通>・ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><ネット型共通>・コート上でネットをはさんで相対し、身体や用具を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うことが楽しい運動である。</p> <p><ベースボール型共通>・基本的なバッド操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交替し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】</p> <p><ゴール型共通>・ドリブルやパス、シュートなどのボール操作や、空間に走り込むなどの個人的技能と、仲間と連携し合って攻防を行うなどの集団的技能から構成される運動である。 (3学年・仲間と連携して空間を使ったり、作り出したりして攻防する運動である。)</p> <p><ネット型共通>・ネットをはさんで相対し、サービス、パス、返球などのボール操作と、打球直後に空いた場所を作らないように定位置に戻る動きで構成される運動である。 (3学年・仲間と連携した動きによって空いている場所を攻撃したり、空いている場所を作り出して攻撃したり、その攻撃に対応して守ったりする運動である。)</p> <p><ベースボール型共通>・基本的なバット操作や走塁などの攻撃と、送球、捕球などのボール操作や定位置での守備などから構成される運動である。 (3学年・連打を重ねるなどの攻撃や仲間と連携した守備で攻防する運動である。)</p>

	<p>【効果的特性】</p> <p><ゴール型共通> • 攻守が入り交じって、時には身体接触を伴いながらゲームを展開するので、ボールをコントロールすることはもちろん、相手や味方の動きを把握し、それに対応した素早い身のこなしが必要となるため、巧緻性、敏捷性、スピード、全身持久力を高めることのできる運動である。</p> <p><ネット型共通> • 相手の打球に応じた動きが必要とされるため、巧緻性、敏捷性、スピード、筋持久力を高めることができる運動である。</p> <p><ベースボール型共通> • 練習や作戦を工夫することで、集団意識を高めることができる。 • 身体やボール、用具を操作して攻守を展開する動きを通して、巧緻性、敏捷性、瞬発力、筋力などを高めることができる運動である。</p>
武道	<p>【機能的特性】</p> <p><柔道> • 技を身に付けたり、身に付いた技を用いて相手と攻防したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。</p> <p><剣道> • 相手と直接組み合って、基本動作や基本となる技、連絡技を用いて相手と攻防しながら、互いに「一本」を目指して勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><剣道> • 竹刀を使って、基本動作や基本となる技を用いて、互いに「一本（有効打突）」を目指して、相手と攻防しながら勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p><相撲> • 素手で相手と直接組み合って、基本動作や基本となる技を用いて攻防をしながら、相手を崩して押したり、寄ったり、投げたりして勝敗を競い合うところに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】</p> <p><柔道> • 相手の動き（3学年：の変化）に応じて行う姿勢と組み方、進退動作、崩しと体さばき、受け身などの基本動作と、投げ技、固め技の基本となる技（3学年：連絡技）からなる運動である。</p> <p><剣道> • 相手の動き（3学年：の変化）に応じて行う構えと体さばき、基本打突の仕方と受け方などの基本動作と、しあけ技、応じ技の基本となる技からなる運動である。</p> <p><相撲> • 蹲踞姿勢、塵淨水、四股、腰割り、中腰の構え、運び足、仕切りからの立ち合い、受け身などの相手の動き（3学年：の変化）に応じた基本動作と、押し、寄り、投げ技などの基本となる技からなる運動である。</p> <p>【効果的特性】</p> <p><柔道> • 練習や試合を通して、瞬発力・筋持久力・巧緻性などを高めることができる運動である。 • 相手を尊重する態度や礼儀・ルールの遵守、公正な態度を養うなど、社会的に望ましい行動の仕方を身に付けることができる運動である。</p> <p><剣道> • 作法、竹刀の取り扱い、防具を着装する時の紐の結び方など、伝統文化が身に付く運動である。 • 道具は自分の身を守るものであると同時に相手にけがをさせるものではないという考えを培い、安全性を確認することで相手を思いやる気持ちや尊重する気持ちが身に付く運動である。 • 主に瞬発力、敏捷性、巧緻性などを高めることができる運動である。</p> <p><相撲> • 練習や試合を通して、瞬発力・巧緻性・柔軟性等を高めることができる運動である。 • 相手との格闘的な対応の中で旺盛な気力や冷静さを培うとともに、相手を尊重する態度や礼儀・ルールの遵守、公正な態度を養うなど、社会的に望ましい行動の仕方を身に付けることができる運動である。</p>
	<p>【機能的特性】</p> <p>• 仲間とともに感じを込めて踊ったり、イメージを捉えて自己を表現したりすることに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。</p> <p>• 他との違いを個性として捉え、互いの良さを認め合うことができる運動である。</p> <p>【構造的特性】</p> <p><創作ダンス> • 仲間とのコミュニケーションを重視する身体表現運動である。 • 多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現をしたりする運動である。 (3学年) • 表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、個性を生かした簡単な作品にまとめたりする運動である。)</p> <p><フォークダンス> • 伝承されてきた日本の民謡や外国の踊りの特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊る運動である。</p> <p><現代的なダンス> • ロックやヒップホップなどの現代的なリズムの特徴を捉え、<u>変化のある動きを組み合わせて</u>（3学年：変化とまとまりをつけて），リズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊る運動である。</p> <p>【効果的特性】</p> <p>• リズミカルな全身運動であることから、動きに関連して柔軟性、平衡性、筋持久力を高めることができる運動である。</p>

(2) 児童生徒から見た特性

学習に向かう姿勢は児童生徒により様々であり、運動の特性に対する求め方や触れ方も一様ではない。したがって、**全ての児童生徒が運動の楽しさや喜びを味わうためには**、どのような児童生徒も積極的に取り組めるように指導の手立てを工夫することが必要となる。

工夫には、運動を行う児童生徒自身がその運動の特性をどのように受け止め、どこに楽しさや喜びを感じるか、児童生徒にとってどのような学習が適切であるかなど、**児童生徒と運動との関係から特性を捉える**ことが大切である。

この「児童生徒から見た運動の特性」を明らかにすることが、児童生徒の運動に対する興味・関心の傾向や能力・適性等を明確にし、児童生徒の実態に応じた具体的な学習のねらいや指導の手立て、適切な学習集団の組織の仕方や学習活動の場を設定することにつながるのである。

(3) 児童生徒の実態

児童生徒の実態については、様々な角度から捉えることができるが、教科の学習指導では、**目標との関連を重視し**、学習指導に生きるような捉え方をすることが大切である。したがって、**運動の楽しさや喜びを重視し、自発的・自主的に運動へ取組ませる**ためには、「運動の楽しさや喜びの体験」「楽しさや喜びを求める学習経験」「運動技能の習得状況」について丁寧に把握する必要がある。

(4) 教師の指導観

児童生徒の実態をふまえて、まず**「今ある児童生徒の期待や要求を理解し**」、それらを吸収するために**「現在の力量から児童生徒がどのような運動の楽しみ方ができるかを把握し**」、それによって**教師の指導観を定める**という構造で捉える。

どのような「ねらい」を提示すれば楽しく学習することができるか、どんな難易度のある**条件設定**であればどの児童生徒も意欲的に挑戦することができるか、どんなルールにすれば一人一人が楽しくゲームをすることができるかなどの**学習の「ねらい」や内容を明確化することが大切**である。

A 運動の楽しさや喜びの体験の差

①運動に対する興味・関心の状況

- 運動すること自体の志向性（好き嫌い）
- 仲間と共に活動すること自体の志向性
- 運動の特性への志向性（種目）

②運動に対する欲求・意欲の状況

- その運動に対しての意欲
- その運動に対する注目、注意
- その運動に対しての期待、求めるもの

B 運動の楽しさや喜びを求める学習経験の差

①自分の力にあつためあてを正しくもてるかどうかの状況

- 先生の指導があればできる。
- 仲間の協力があればできる。
- 学習資料等があればそれを使って自分でできる。
- 学習資料等を活用し、発展させてできる。

②めあてを達成するための運動の工夫や練習ができるかどうかの状況

- 具体的には①に同様

③協力や教え合いがオープンにできるかどうかの状況

- 具体的には①に同様

C 技能の習得状況や技能のレベル

①現在身に付けている技能や知識の状況

②技術構造から見て、特性への触れ方はどのようにできるのかの状況（球技の例）

- 易しいルールと易しい運動の場の条件であればゲームを楽しむことができる。
- 攻防に作戦を駆使してゲームを楽しむことができる。
- 技能を伸ばすことによってゲームを楽しむことができる。

◇「ねらい」と「めあて」

単元計画を作成する上で、どのような運動の楽しさや喜びを求めて学習を展開していくのか、単元全体の学習活動を方向付け、教師側と学ぶ側の目指す方向を一致させるためのものが「ねらい」である。

「ねらい」は主に教師が示すもので、それは運動の特性から導かれ、例えば「跳び箱運動」では「技に挑戦して楽しむ」、「ボール運動」では「チーム間で得点の競い合いをして楽しむ」というように提示することができる。

一方「めあて」とは、「①目標を設定する」・「②課題を選択する」・「③活動を決定する」など、運動の楽しさや喜びを求める活動の中で、今自分のもっている力でどのようなことができるか、あるいはどうしたいかという活動の内容を表すもので、児童生徒がもつものである。例えば、「跳び箱運動」の「技に挑戦して楽しむ」というねらいを受けて、「①かかえ込み跳びができるようになる。」・「②膝を胸に引き付けるタイミングをつかむ。」・「③低い高さの跳箱（凹型）で両足を跳び箱の上に乗せるようにする。」などの例が挙げられる。

また、めあてを学習の内容に据えた学習の進め方である「めあて学習」は、児童生徒の内発的な運動意欲を重視した学習形態（自己決定）であり、「教えられる体育」から自分の「めあて」をもち、創意工夫することで意欲的に運動を実践できる態度を身に付けさせようとするものである。児童生徒の主体的な学びを充実させるためには、自己決定を支えるための「教師のきめ細かな指導」が特に重要である。

「教師のきめ細かな指導」のためには、児童生徒のめあてを把握し、行動や反応・つまずきなどを事前に予想しておかなければならない。特に「つまずき」に対しては、それに対する具体的な支援や手立てを準備しておかなければならない。

そのためには、単元における指導と評価の計画が重要である。**指導目標（どのような資質・能力を育てるか）を明らかにし、指導方法（どのように身に付けさせるか）を考え、評価（身に付いた姿を見取る）をいつ行うか**計画することで、単元の見通しができ、きめ細かな指導の準備が行える。

よくある質問

Q 指導案によって、ねらいとは別に、時間ごとに「本時のねらい」や「学習課題」と書かれているものがありますが、どちらの用語を使えばよいですか。

A 単元の学習のねらいを達成するために、その時間に設定するものを「本時のねらい」や「学習課題」と表します。同様の目的であれば、市町村教育委員会や各研究会等によって大切にしている言葉を用いても構いません。

3 「学習過程」と「学習評価」の充実

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。

「児童生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようするためにも、学習評価の在り方は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

各教科の評価については、学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的に捉える「評定」が学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされている。

(1) 学校における指導と評価の工夫改善について

ア 指導と評価の一体化

指導と評価とは別物ではなく、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である。このことを「指導と評価の一体化」と言う。

指導と評価を一体的に、しかも不断に行いつつ、単元の終末においては全ての児童生徒に、評価規準が実現するよう努めることが重要である。

【例】



3時間目に袈裟固めの指導を行い、5時間目に出来映えを見取った際、多くの生徒が評価規準Bに満たなかったので、教師が自らの指導の方法に問題がなかったか振り返った。
「生徒たちが、話合いで、技のポイントを教え合えたのは良かったが、初めて行う柔道の固め技なので、正しい形のイメージが出来ていないでは？よし！袈裟固めの技の絵を大きくした掲示物に、話し合った内容の付箋紙を貼らせて、全体で技のポイントを見る化して共有させよう。」と指導を改善し、次の授業で、多くの生徒が評価規準のBに達した為、再度評価をした。このように、生徒の学びの状況（評価規準の身に付いている状況）から指導を改善し、児童生徒の学びを改善していくことが大切である。

イ 学習評価の改善の基本的な方向性

生徒の学習改善に

つながるものにしていくこと

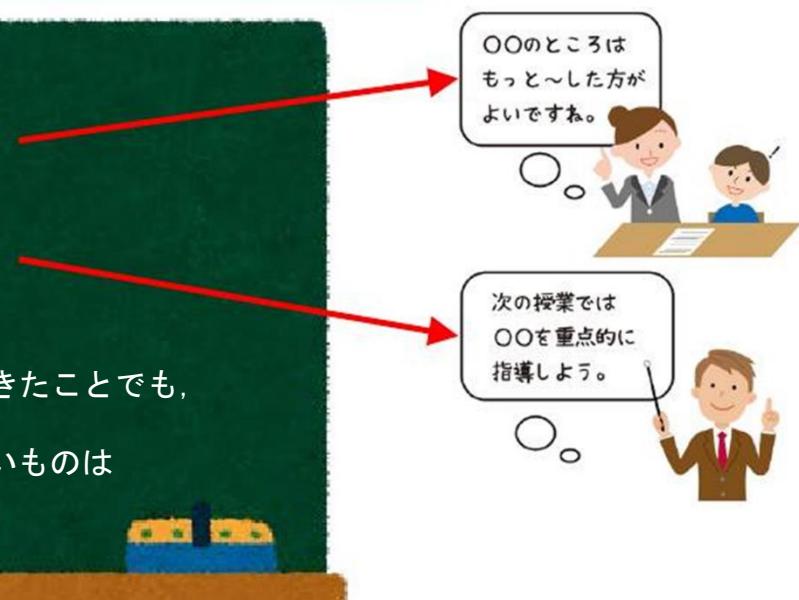
教師の指導改善に

つながるものにしていくこと

これまで慣行として行われてきたことでも、

必要性・妥当性が認められないものは

見直していくこと



ウ 評価の方針等の児童生徒との共有

学習評価の妥当性や信頼性を高めるとともに、児童生徒自身に学習の見通しを持たせるため、学習評価の方針を事前に児童生徒と共有する場面を必要に応じて設ける。

エ 観点別学習状況の評価を行う場面の精選

観点別学習状況の評価に係る記録は、毎回の授業でなく、単元や題材などの内容や時間のまとまりごとに行なうなど、評価場面を精選する。

※日々の授業における、生徒の学習状況を適宜把握して、指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要。

オ 学校全体としての組織的かつ計画的な取組

教師の勤務負担軽減を図りながら学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、学校全体としての組織的かつ計画的な取組を行うことが重要。

※例えば以下の取組が考えられる。

- ・教師同士での評価規準や評価方法の検討、明確化。・実践事例の蓄積、共有。
- ・評価結果の検討等を通じた教師の力量の向上。・校内組織（学年会や教科部会等の活用。）

(2) 評価規準の工夫改善

ア 児童生徒の具体的な姿の想定と評価

「おおむね満足できる」状況（B）や「十分満足できる」状況（A）を判断する際、参考となるのが「児童生徒の具体的な姿」である。

活動している児童生徒たちの様子をイメージしたり、実際の児童生徒の様子を観察したりして、「児童生徒の具体的な姿」をある程度予想しておくことで、適切な評価がしやすくなる。また、学習活動における典型的なつまずきの例を把握しておくと適切な支援を行うことができる。

「児童生徒の具体的な姿」を生かした評価と支援の例

(単元の評価規準)

自分に合った易しい場において、インターバルを決まった歩数で最後まで走り越すことができる

走り越した後も、
体がぶれずに安定
している。

自分に合った場で、最後のハードルまで、
インターバルを同じ歩数で走り越している。

(「十分満足できる」状況
と判断する「児童生徒の
具体的な姿」の例)

(「おおむね満足できる」状況と判断
する「児童生徒の具体的な姿」の例)



<具体的な支援の例>

「走る」と「越す」の動きがスムーズに
つなげられないまま走り越している。

(「努力を要する」状況と判断するつまずきの例)

よい動きを観察したり、ハ
ードルの高さや材質を変え
た場で練習をしたりする。

児童生徒の具体的な姿の想定

- ・児童生徒の学習状況を適切に把握することができる。
- ・「努力を要する」状況（C）と判断される児童生徒に対して「おおむね満足できる」状況（B）になるよう具体的な手立てをより支援しやすくなる。
→ 児童生徒の具体的な姿の教師間の共有 **評価の信頼性**

「十分満足できる」状況：「おおむね満足できる」状況から質的に高まっている状況を示している。

※上の例では「自分に合った易しい場でインターバルを、同じ歩数で走り越している」児童生徒の姿から「体がぶれずに安定して」走り越すことができている姿に動きの質の高まりが見てとれる。

※数量的な高まり（〇〇秒タイムが縮まったなど）を評価するものではない。

イ 評価の進め方（小学校）

（ア）単元の目標を作成する。（例：第1学年及び第2学年 B 器械・器具を使っての運動遊び）

- ・単元の目標は学習指導要領本文を参考に、設定することができる。
- ・本文に示された内容は、各領域において育成を目指す資質・能力であるため、学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができる。
- ・単元の目標の語尾は、「～することができるようとする」と表記する。

（1）マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようとする。

【知識及び技能】

（2）マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようとする。

【思考力、判断力、表現力等】

（3）マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようとする。

【学びに向かう力、人間性等】

※ 学習指導要領本文を参考に設定（太字は引用部分）

（イ）単元の目標から評価の視点を整理する。

- ・「内容のまとめごとの評価規準」をもとに、学習指導要領解説の表記などを用いて学習活動に対応した「単元の評価規準」を作成する。文末は下記のように表記する。

技能	～できる
知識	
思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」	～している
主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外	～しようとしている

- ・「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
- ・「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。

（ウ）指導計画を立案する

- ・児童の実態を踏まえ、単元の目標の達成に向けた指導計画を作成する。
- ・指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮し、無理のない計画に留意する。

時間	1	2	3	4	5	6
0	・オリエンテーション ・感覚つくりの運動遊び紹介 ・学習カードの使い方	・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり ・転がり方を組み合わせる。	・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び ・川跳びからの腕立て横跳び越し	・さかさまになる動き ・さかさまからのブリッジ	・グループでマットランドの場を作る。 ・作ったランドをグループ間で紹介し合う。	・他のグループが作ったランドで楽しむ。 ・もっと楽しいランドになるよう工夫する。
45						

(エ) 単元の評価規準を作成する。

- ・「内容のまとめごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。
- ・各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。</p> <p>②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。</p> <p>③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。</p>	<p>①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がができるような場を選んでいる。</p> <p>②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。</p> <p>③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。</p>	<p>①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。</p> <p>②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。</p> <p>③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。</p> <p>④場の安全に気付けている。</p>

(オ) 指導と評価の計画を作成する。

- ・単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るのかの計画を立てる。
- ・指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

時間	1	2	3	4	5	6
	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚つくりの運動遊びの紹介	場の準備 → 準備運動（感覚つくりの運動遊び） ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴょんぴょんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作つて楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合って楽しむ。	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介 転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
		振り返り→整理運動→片付け				
知		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察		
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	

(カ) 観点ごとに総括する。

- ・総括の仕方については、学年又は学校として統一しておくことが重要。
- ・原則論にとらわれることなく様々な状況を踏まえ、児童の学習状況を見取ることが大切。

ウ 評価の進め方（中学校）

（ア）単元の目標を作成する。（例：第1学年及び第2学年「E 球技：ゴール型（サッカー）」）

- ・学習指導要領解説の「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」に育成を目指す「資質・能力」が示されている。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となりえる。
- ・語尾を「～することができるようになる。」として作成。

単元の目標

（1）次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性、技術の名称や行い方を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようになる。 ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようになる。

【知識及び技能】

（2）攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようになる。

【思考力、判断力、表現力等】

（3）球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようになる。

【学びに向かう力、人間性等】

（イ）単元の評価規準を作成する。

- ・体育分野では指導内容を一層明確にするため、学習指導要領解説において指導内容の全てに例示が示されたため、例示をもとに文末を変えて作成することができる。文末は下記のように表記する。

観点		文末等
知識・技能	知識	「～について、言ったり書き出したりしている」 ※一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きく相違が無いもの。（「特性や成り立ち」等）
	技能	「～について、学習した具体例を挙げている」 ※学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるもの。（「技の名称や行い方」等）
思考・判断・表現		「～できる」
主体的に学習に取り組む態度		「～している」 「～しようとしている」 ※意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いる。 「～に留意している」「～を確保している」 ※「健康・安全」の観点に用いる。意欲をもつにとどまらず、実践することが求められているため。

・「知識・技能」の評価について

知識・技能に分けて評価をし、最終的に「知識・技能」の観点に総括する。

これは、「知識・技能」を総括した評価を提示するだけでは、生徒自身の学習の改善につなげる情報が不足するとの考えに基づいている。

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

体育分野においては、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、内容のまとまりごとに「学びに向かう力、人間性等」に対応した、公正、協力、責任、参画、共生及び健康・安全の具体的な指導内容を示している。

学習評価は、目標や内容に対応して行われるため、それぞれの指導内容の評価規準を細かく作成することができる。

【単元の評価規準作成の手順】

①全ての「単元の評価規準」を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u> ・学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u> ・球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u> ・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u> ・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u> 	<p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ・マークされていない味方にパスをき出すことができる。 ・得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ・パスやドリブルなどでボールをキープすることができます。 ・ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。 ・パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動くことができる。 ・ボールを持っている相手をマークすることができます。 <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。 ・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ・仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。

②全ての「単元の評価規準」の中から当該単元における指導事項を踏まえ選ぶ。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></p> <p>② 学校で行う球技は近代になって開発され、今日では、オリンピック・パラリンピック競技大会においても主要な競技として行われていることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></p> <p>③ 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p> <p>・対戦相手との競争において、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p> <p>・球技は、それぞれの型や運動種目によって主として高まる体力要素が異なることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p>	<p>① 1 ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>② 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p> <p>※ネット型、ベースボール型は省略</p>	<p>① 1 提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>・学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>・練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>② 2 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③ 3 中間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p> <p>・体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>

③当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></p> <p>②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p>	<p>○技能</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p> <p>③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。</p>	<p>①提示された動きのポイントやつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。</p>

・ここでの○数字は、評価の順番を示しているわけではないことに留意する。

(ウ) 指導と評価の計画を作成する。

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開し、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようとする。																	
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。																	
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとすること、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。																	
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10								
学習の流れ	0	オリエンテーション時間 健康観察・本時のねらいの確認・準備運動																	
	10	ボール操作 シュート バス トラップ	ボール操作の反復練習							最終リーグ戦Ⅱ 最終一リム一グの戦修一正	最終リーグ戦Ⅱ								
	20		空間に走り込むなどの動き ボールとゴール		課題の確認と解決の練習 ボール操作 空間に走り込む														
	30	ボール慣れゲーム シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言		簡易ゲームⅠ 人数・コート・ルール等の簡易化														
	40		整理運動・学習の振り返り・次時の確認																
	50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認																	
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10								
評価機会	知識	① (カード)				② (カード)													
	技能		シュート バス	① (観察)	位置	② (観察)	③ (観察)												
	思・判・表						② (観察・カード)	① (観察・カード)		③ (観察・カード)									
	態度	健康・安全	② (観察)	協力	① (観察)						総括的な評価								
単元の評価規準	知識	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。																	
	技能	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にバスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。																	
	思・判・表	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。																	
	態度	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。																	

・指導場面と評価機会の関係

評価	評価機会	
「技能」「主体的に学習に取り組む態度」	指導後に一定の学習期間及び評価期間を設ける。	技能の獲得、向上や態度の育成等に一定の期間が必要となり、主に観察評価によって評価を行うため。
「知識」「思考・判断・表現」	指導から期間を置かず評価する。	主に学習カード等に記述された内容から評価の材料を得ようとするため。 ※生徒の発言等の観察評価によって得られた評価の材料を加味して、評価の妥当性、信頼性等を高める工夫が必要。

※評価の方法によっては、必ずしも評価の機会がこのとおりとは限らない。

しかし、従前の国立教育政策研究所の資料においても、同様の記載があることから、重要なポイントとなり得る。

- ・「総括的な評価の役割」

生徒一人一人の学習状況を明確にし、その後の生徒の学習や教師の指導改善に生かすもの（指導と評価の一体化）にするためには、単元の適切な場面での評価が重要となる（評価の重点化）。特に、「努力を要する」状況（C）への対応を素早く、丁寧に行わなければならない。「総括的な評価」は重点化された評価の機会における評価結果の活用により、その後の学習や指導の改善を経た上で最終確認し、観点別学習状況の評価を確定することで、学習評価の妥当性・信頼性を高めるという意図に基づいている。

(例)

「知識・技能」の「知②」について、生徒イは、5時間目ではCの評価であったが、知識と技能を関連させて指導を行い、10時間目の総括的な評価で「おおむね満足できる」状況が認められたことからBと評価した。

(工) 観点ごとに総括する。

- ・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

(例)

単元名		体つくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）		総括	
時間数		4		10		10			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒口	知	B B (2) (2)	2	A A (3) (3)	2	A A (3) (3)	2	A (2.67)	A (2.54)
	技			B B (2) (2)		B A (2) (3)		B (2.43)	
	思	A A (3) (3)	2	B B (2) (2)		A A (3) (3)	3	A (2.57)	
	態	B (2)	1	A A (3) (3)	2	B A (2) (3)	2	A (2.60)	

○ A, B, Cの組み合わせに基づいて総括する例

「知識・技能」は「知識」Aで「技能」Bだが、全ての評価の数を比べて多い方の評価とすることを事前に取り決めていたので、A数が7、Bの数が6のため、総括はAとする。

「思考・判断・表現」のAの数が4、Bの数が3のため、総括はAとする。

「主体的に学びに向かう態度」のAの数が3、Bの数が2のため、総括はAとする。

○ A, B, Cを数値に表したものに基づいて総括する例

A中学校で設定した総括の基準の例

$$A > 2.50 \quad 2.50 \geq B \geq 1.50 \quad 1.50 > C$$

3	2	1	

「知識」の平均は（2.67）となり、Aと総括する。

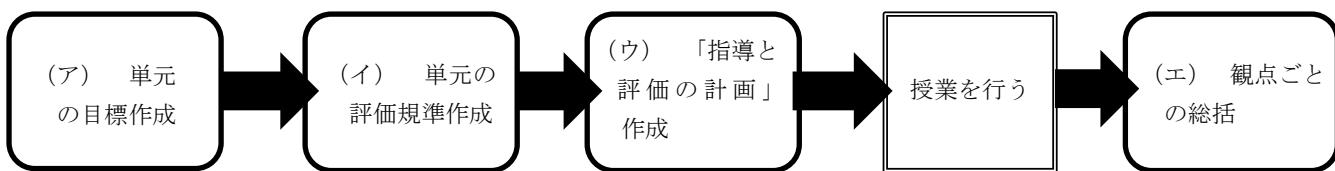
「技能」の平均は（2.43）となり、Bと総括する。

AとBが混在するが「知識・技能」の平均は（2.54）となるため、Aと総括する。

「思」、「態」も平均から総括する。

エ 評価規準の設定（高等学校）

「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価基準の作成例



(ア) 単元の目標作成

- a 学習指導要領「第2章 第2節 3 内容」から当該単元の目標となる部分を明示する。
- b 単元の目標の語尾は、「～することができるようとする。」とする。

例) B 球技【入学年次】

知識及び技能	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携してゲームを展開することができるようとする。 ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防 することができるようとする。
思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。
学びに向かう力、人間性等	球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとしていること、作戦などについての話し合いに貢献しようとしていること、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしていること、互いに助け合い教え合おうとしているなどや、健康・安全を確保することができるようとする。

(イ) 単元の評価規準作成

- a 全ての「単元の評価規準」を作成する。
- ・科目体育では指導内容を一層明確にするため、学習指導要領解説において指導内容の全てに例示が示されたため、例示をもとに文末を変えて作成することができる。文末は下記のように表記する。

観点	文末等
知識・技能	「～について、言ったり書き出したりしている」 ※一般的に認知された科学的な知識を内容とするもので、各学校や教師の指導によって大きく相違が無いもの。（「特性や成り立ち」等）
	「～について、学習した具体例を挙げている」 ※学校や生徒の実態に合わせて、指導する教師により取り扱われる内容に相違が予想されるもの。（「技の名称や行い方」等）
技能	「～できる」
思考・判断・表現	「～している」
主体的に学習に取り組む態度	「～しようとしている」 ※意思や意欲を育てるという情意面の例示に用いる。
	「～に留意している」「～を確保している」 ※「健康・安全」の観点に用いる。意欲をもつにとどまらず、実践することが求められているため。

- b 当該単元における「単元の評価規準」を作成する。

- ・全ての「単元の評価規準」から選択したり、作成したりするなどして、当該単元の評価規準を設定する。

例) B 球技【入学年次】全ての「単元の評価基準」

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>○知識</p> <p>① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p> <p>・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p> <p>・ゲームに必要な技術と関連させた補助運動や部分練習を繰り返したり、継続して行ったりすることで、結果として体力を高めることができますことについて、<u>学習した具体例を挙げている。</u></p> <p>② 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、<u>言ったり書き出したりしている。</u></p>	<p>○技能</p> <p>① 身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。</p> <p>② タイミングを合わせてボールを捉えることができる。</p> <p>・ねらった方向にボールを打ち返すことができる。</p> <p>・スピードを落とさずに円を描くように墨間を走ることができる。</p> <p>・打球や守備の状況に応じた墨の回り方で、墨を進んだり戻ったりすることができます。</p> <p>③ 捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができます。</p> <p>④ ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げることができます。</p> <p>・仲間の送球に対して墨上でタイミングよくボールを受けたり、中継したりすることができます。</p> <p>・味方からの送球を受けるために、走者の進む先の墨に動くことができます。</p> <p>・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすることができる。</p>	<p>・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に<u>伝えている。</u></p> <p>自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを<u>伝えている。</u></p> <p>・選択した運動に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を<u>選んでいる。</u></p> <p>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について<u>振り返っている。</u></p> <p>・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を<u>振り返っている。</u></p> <p>・チームで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて、自己の活動を<u>振り返っている。</u></p> <p>・作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に<u>伝えている。</u></p> <p>② 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を<u>見付けている。</u></p> <p>・球技の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を<u>見付けている。</u></p> <p>① 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</p> <p>・作戦などについての話合いに<u>貢献しようとしている。</u></p> <p>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを<u>大切にしようとしている。</u></p> <p>② 互いに練習相手になつたり仲間に助言したりして、互いに助け合い<u>教え合おうとしている。</u></p> <p>③ 健康・安全を<u>確保している。</u></p>

例) B 球技【入学年次】当該単元における「単元の評価規準」

※ここでの○数字は、評価の順番を示しているわけがないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① 球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>② 練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>○技能</p> <p>① 身体の軸を安定させてバットを振りぬくことができる。</p> <p>② タイミングを合わせてボールを捉えることができる。</p> <p>③ 捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールを捕ることができます。</p> <p>④ ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げることができます。</p>	<p>① 自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>② 体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</p> <p>③ 健康・安全を確保している。</p> <p>① 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>② 互いに練習相手になつたり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p> <p>③ 健康・安全を確保している。</p>

(ウ) 指導と評価の計画を作成する。

領域 球技 ベースボール型（ソフトボール）

年次〔入学年次〕

(エ) 観点ごとの総括【評価】

・集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価（A, B, C）を行う。

◇評価結果のA, B, Cの数を基に総括する例

例) 「思考・判断・表現」について3回評価をした場合

$$\cdot AAB \rightarrow A \quad \cdot BBC \rightarrow B \quad \cdot ABC \rightarrow B$$

「知識・技能」は「知識」Aで「技能」Bだが、全ての評価の数を比べて多い方の評価とすることを事前に取り決めていたので、A数が7, Bの数が6のため、総括はAとする。

「思考・判断・表現」のAの数が4, Bの数が3のため、総括はAとする。

「主体的に学習に取り組む態度」のAの数が3, Bに数が2のため、総括はAとする。

(例)

単元名		体つくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）		総括	
時間数		4		10		10			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒口	知	B B (2) (2)	2	A A (3) (3)	2	A A (3) (3)	2	A (2.67)	A (2.54)
	技			B B (2) (2)	4	B A (2) (3)	3	B (2.43)	
	思	A A (3) (3)	2	B B (2) (2)	2	A A (3) (3)	3	A (2.57)	
	態	B (2)	1	A A (3) (3)	2	B A (2) (3)	2	A (2.60)	

◇評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて総括する。

$$\text{例)} \quad A^\circ = 5 \quad A = 4 \quad B = 3 \quad C = 2 \quad C^\triangle = 1$$

$$A \geq 4.00 \quad 4.00 > B \geq 2.50 \quad 2.50 > C$$

5段階で評価し評定へ総括する例

A高校における年間指導計画の1学期の総括の例

単元名		体つくり運動		体育理論		領域選択 (器械運動)		総括		評定
時間数		5		3		18				
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数			
生徒A	知	B B (3) (3)	2	A B (4) (3)	2	B B A (3) (3) (4)	3	B (3.29)	B (3.70)	4 or 3
	技			A O A O (5) (4) (5)	3	A O (4.67)				
	思	A B (4) (3)	2	B (3)	1	A B B B (4)(3)(3)(3)	4	B (3.29)		
	態	B (3)	1		0	A A O A O (4) (5) (5)	3	A (4.25)		

◇観点別評価の評定への総括の例

$$\text{例)} \quad \cdot BBB \rightarrow 3 \quad \cdot AAA \rightarrow 5 \quad \cdot AAB \rightarrow 4$$

※「知・技」「思・判・表」「態度」の順に示しています。

4 「学習指導案」の形式例（新学習指導要領対応）

第○学年○組 体育科学習指導案

令和〇年〇月〇日 () 第〇时限 活動場所
第〇学年〇組 (男子〇名, 女子〇名) 計〇名
指導者名 ○ ○ ○ ○

1 単元名

2 単元について

(1) 一般的な特性

運動の特性について記述する。

その運動種目の特性を、一般的な魅力や楽しさ楽しみ方、運動の構造などいくつかの立場から明らかにし、それを求める学習活動の基本的な方向付けを示す。(それぞれの特性は、P 38~41 参照)
「機能的特性」「構造的特性」「効果的特性」に分けるとよい。特に、「機能的特性」は、「深い学び」につながるものであるので、確実におさえておく。



(2) 児童（生徒）から見た特性

児童（生徒）と運動との関係から運動の特性を捉え直す

- ・運動をどのように受け止めているのか
 - ・運動のどこに楽しさや喜びを感じているのか（阻害要因も）
 - ・運動の楽しさや喜びを味わうためにどのような学習ができるのか（どのような楽しみ方や工夫ができるのか）
- ※「児童（生徒）から見た特性」を明らかにすることによって運動に対する興味・関心の傾向や能力・適性等児童（生徒）の特徴がわかり、具体的な学習のねらいや指導活動の目安、学習集団の組織の仕方や学習活動の場の工夫の方向性が導かれる。



(3) 児童（生徒）の実態 ※実態調査アンケート（事前の評価）

学習の準備状態（レディネス）の把握

- ・運動の特性に触れる楽しさ体験の状況（運動に対する興味・関心・欲求・意欲など）
 - ・運動の特性に応じた楽しみ方に関する学習経験の状況
- 自分の力にあったためあてをもてるか、めあて達成のための運動の工夫や練習・挑戦ができるか 等
- ・運動の技能の習得状況、ルールの理解状況

※調査の結果は、図・表などで分かりやすく表示し、参考として添付するとよい。

※ここには、教師の主観等は入れず、事実のみを述べる。



(4) 教師の指導観

単元の特性と児童（生徒）の実態から考え、児童（生徒）たちにより深い楽しさを味わわせるために、単元のどこに重点を置き、どのように指導しようとするのかを書く。

運動の一般的な特性、運動とそのクラスの児童（生徒）の関係や運動に対する能力や興味・関心等の相違の度合い（学習の準備状況）から、学習のねらいや学習集団の組織の仕方、学習活動の場の工夫の方向など授業をどのように設計していくかの見通しを明らかにする。



3 単元目標 「学習指導要領の内容」を参考に、設定することができる P 46・48・52 参照

- 知識及び技能
○思考力、判断力、表現力等
○学びに向かう力、人間性等

語尾→「～できるようにする。」

4 評価規準 (国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」ための学習評価に関する参考資料を参照)
小学校

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	学習指導要領に示す目標及び内容「2 内容」の項目等をそのまとめごとに細分化したり整理したりして示したもの ◆学習指導要領の「2 内容」の文末を変えて作成 ※国政研資料の「巻末資料」に参考例あり ※記載省略可だが、これを基に「単元の評価規準」を作成する点を押さえておく		
単元の評価規準	児童の実態等を考慮しつつ、「内容のまとめごとの評価規準」を踏まえて作成する ① (知識) ～している ② (技能) ～できる ③ ※知識と技能で分けて設定 (例) 知：言える、書き出す、説明、 実際に使う 技：(連続して・滑らかに・安定して) できる	①～している ② ③ ※思考・判断と表現で分けて設定 (例) 思・判：予想、分析、判断、 選ぶ、見つける、設定 表：(よい・工夫した動きを) 書き出したりする	① (健康・安全) ～している ② (健康・安全以外) ③ ～しようとしている ※愛好的態度、公正・協力、 責任・参画、共生、健康・安 全の項目に分けて設定 (例) 取組の姿、協力、励まし、支える 役割、他を認める、自他の安全

中学校

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	○知識 ○技能 学習指導要領に示す目標及び内容「2 内容」の項目等をそのまとめごとに細分化したり整理したりして示したもの ◆学習指導要領の「2 内容」の文末を変えて作成 ※国政研資料の「巻末資料」に参考例あり ※記載省略可だが、これを基に「単元の評価規準」を作成する点を押さえておく		
単元の評価規準	○知識 ①～について、言 ったり書き出し たりしている。 あるいは、 ～について、学習 した具体例を挙 げている。 ② ③	○技能 ①～ができ る。 ② ③	①～している。 ② ③ 例) 例示 ～出来映えを伝えること。 評価規準  ～出来映えを伝えている。

学習指導要領解説の例示をもとに作成することができる。

留意点については、国政研資料 P 43 参照

高等学校（入学年次、入学年次の次の年次）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめごとの評価規準	○知識 ・ ○技能 ・	学習指導要領に示す目標及び内容「2 内容」の項目等をそのまとめごとに細分化したり整理したりして示したもの ◆学習指導要領の「2 内容」の文末を変えて作成 ※国政研資料の「巻末資料」に参考例あり ※記載省略可だが、これを基に「単元の評価規準」を作成する点を押さえておく	
単元の評価規準	○知識 ①～について、言つたり書き出したりしている。 あるいは、 ～について、学習した具体例を挙げている。 ② ③	○技能 ①～ができる。 ② ③ 例) 例示 ～出来映えを伝えること。	①～している。 ② ③ 例) 例示 ～出来映えを伝えること。 評価規準 ～出来映えを伝え ている 。 ※健康・安全については、意欲にとどまらず実践することが求められている。

高等学校（その次の年次以降）

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
内容のまとめ（領域）ごとの評価規準		・「評価規準に盛り込むべき事項」を記入する。		
単元（種目）の評価規準		・「評価規準の設定例」を必要に応じて修正し、作成する。		
学習活動に即した評価規準	①～しようとしている ② ③ (例) 資料を探す、発言、発表、調べる、協力、励まし、受け入れ、留意	①～している ② ③ (例) 予想、分析、判断、選ぶ、見つける、設定、計画を立てる	①～できる ② ③ (例)	①～している ② ③ (例) 書き出す、言える、説明する

※評価規準は、上記の三層による構成にすることで、明確にしやすい。

運動への関心・意欲・態度の健康・安全に係る内容について、行動化が求められることから、「～している」とする。

5 指導と評価計画（例）（中学校 第1学年の例）

- 指導と評価の一体化（何を身に付けさせ、何を評価するのか。指導内容と評価内容が一致しているか）
- 効果的・効率的な評価（単元の評価規準について「いつ・どの観点を」評価するかを示す）

（1）体育「球技」（ゴール型：サッカー）第1学年における指導と評価の計画の例

単元の目標	知識及び技能	勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開し、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようとする。												
	思考力、判断力、表現力等	攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようとする。												
	学びに向かう力、人間性等	球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなど、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとすること、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようとする。												
	時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
学習の流れ	0	オリエンテーション	ボール操作	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										
	10			ボール操作の反復練習										
	20	シヨン	シュート パス トラップ	空間に走り込むなどの動き	課題の確認と解決の練習			最終リーグの戦II	最 終 リ ー グ 戦 II	単元のまとめ				
	30	ボーラル慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	ポールとゴール	ボール操作	空間に走り込む								
	40			グリッド突破ゲーム 仲間の即時の助言	簡単ゲームI	人数・コート・ルール等の簡易化								
	50		整理運動・学習の振り返り・次時の確認											
評価機会		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
	知識	① (カード)				② (カード)								
	技能		① (観察) 位置 ② (観察)	③ (観察)										
	思・判・表					② (観察・カード)	① (観察・カード)		③ (観察・カード)					
単元の評価規準	態度	健康・安全 ② (観察)	協力 ① (観察)											
	知識	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。												
	技能	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができます。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができます。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができます。												
	思・判・表	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶこと。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。												
	態度	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。												

※小学校においては、知識と技能は一つにまとめる。（評価機会）

「4 評価規準」で作成したものを、ここに記載

- ・いつ評価（上記表の○数字）するのかを示す。指導後に期間を設けて評価する観点は、□と矢印で指導と評価の機会を示す。
- ・「知識・技能」の観点の「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」の二つの観点における評価は、技能の獲得、向上や態度の育成等に一定の学習期間が必要となること、主に観察評価によって評価を行うことから、指導後に一定の学習期間及び評価期間を設け、評価する。
- ・「知識・技能」の観点の「知識」及び「思考・判断・表現」の二つの観点における評価は、知識を活用する場面や思考・判断したことを表現する場面などを設定し、指導から期間を置かずに評価する。
- ・1単位時間の評価項目は1～2程度とし、全児童・生徒を評価する。

（参考）国立教育政策研究所【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料】

小学校体育（P56）・中学校保健体育（P47）・高等学校保健体育（P51）

（2）保健「欲求やストレスへの対処と心の健康」 第1学年における指導と評価の計画の例

時	学習内容・学習活動	評価の重点			評価方法等
		知技	思判表	態度	
1	・心と体が結びついていると実感した体験を振り返る。 ・良い（プラス）影響と悪い（マイナス）影響についてあげる。 ・これらの影響は、無意識のうちに引き起こされることを知る。 ・心と体は、神経などの働きを通じて密接に影響し合っていることを知る。	①			観察 ワークシート
2	・心の健康を保つ上で重要だと思うことについて、これまでの自分の生活をふり返りながら考える。 ・今の自分が「～したい」「～したくない」と思うことについてあげる。 ・欲求の分類や段階、心の発達と欲求との関係について知る。 ・欲求が満たされなかったときの気持ちや行動について思い出す。 ・欲求不満への対処方法として考えられる行動についてグループで話し合い、発表する。	②	①		観察 ワークシート
3	・ストレスについて知り、適度なストレスは精神発達上、必要なものであることを知る。また、思春期は、ストレスを感じやすいことについて知る。 ・強いストレスは、心や体の不調や病気の原因となる場合もあることについて知る。 ・ストレスへの対処方法として、どのような方法があるかについて考え、発表し合う。 ・自分に合ったストレスへの対処の仕方を選ぶことについて、ワークシートにまとめる。 【課題】次時に向けて「リラクセーションの方法」を調べてくる。 (ICTの活用。家族への聞き取り。等)	③	②		観察 ワークシート（授業後）
4	・調べてきた「リラクセーションの方法」について、グループで共有し、全体に発表する。 ・ストレスによる心身の負担を軽くするようなリラクセーションについて、意義や手順、行い方のポイントを確認しながら実践してみる。 (教科書QRコードを活用し、腹式呼吸等の呼吸法中心に実施。) ・実習を通して理解したことをワークシートにまとめる。	④		①	観察 ワークシート（授業後）
単元の評価規準	知識・技能 ①精神と身体には、密接な関係があり、互いに影響を与えていてこと、心の状態が体に、体の状態が心にあらわれるのは、神経などの働きによるものであるということについて理解したことを言ったり、書いたりしている。 ②心の健康を保つには、適切な生活習慣を身に付けるとともに、欲求やストレスに適切に対処することが必要であることについて、理解したことを行ったり、書いたりしている。 ③ストレスへの対処にはストレスの原因となる事柄に対処すること、コミュニケーションの方法を身に付けることなどいろいろな方法があり、それらの中からストレスの原因、自分や周囲の状況に応じた対処の仕方を選ぶことが大切であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。 ④リラクセーションの方法等がストレスによる心身の負担を軽くすることについて理解したことを言ったり、書いたりしているとともに、それらの方法で対処することができる。	体づくり運動との関連			
断思・考表・現判	①欲求やストレスへの対処について、他者と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて伝え合っている。 ②欲求やストレスへの対処について、習得した知識や技能を自他の生活と比較したり、活用したりして、心身の健康を保持増進する方法やストレスへの適切な対処の方法を選択したりしている。				
取り組む態度に学習度に	①欲求やストレスへの対処について、課題の解決に向けての学習に自主的に取り組もうとしている。				

6 本時の指導（6／10）

（1）目標

※単元の目標と同様に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」について記載する。（語尾→「～できるようにする」）
※観点別のうち、評価規準に該当する項目は重点として○で、その他は○で記載する。

（2）展開

1 単位時間の中で評価する内容は、『授業の展開及び指導と評価の計画』に基づいて、絞り込んだもの（1～2個程度）とする。

※評価の結果「努力を要する」状況（C）と判断した児童・生徒への支援の手立てを具体的に示す。

例）努力を要する生徒に対し、個別に説明したり示範したりするなどして、技能のポイントをつけるよう支援する。

過程	時間	学習内容と活動	指導・支援(○), 評価 (☆)	用具・資料
はじめ	10分	①学習内容の理解・確認 ②学習活動の行い方 ③準備・点呼・健康観察など		
なか	30分	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の順序を定めて書く 運動の組み合わせや運動する場所、思考する場所、評価する場などを配慮する 興味や技能を追求し、より深い楽しさや喜びを味わう学習活動として捉えて示す <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 4 評価規準「単元の評価規準」を記載 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> つまずき、努力を要する児童・生徒の具体的な姿 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 努力を要する児童・生徒への具体的な支援や手立て </div>	<p>☆評価規準・評価計画に基づき、評価の場面を具体的に示す。</p> <p>「おおむね満足できる」状況（B）を判断する「児童・生徒の具体的な姿」から「つまずき」の例を把握し、それに対する具体的な支援を示す。</p> <p>(記入例) ☆～している。【思考・判断・表現】 (観察・学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な～を選んでいない。 →個にあった練習の方法を助言する。 友達と協力して取り組んでいない。 →具体的な視点を助言する。 	
まとめ	10分	①目標に対する活動の評価・振り返り ②整理運動・健康観察 ③用具の後片付けなど		

5 授業改善チェックシート

「生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎づくり」を実現するためには、児童生徒の能力、興味関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決していく授業づくりが必要である。

そこで、先生方が体育の授業を進める上で参考となる、「単元編」、「展開編」、「総括表」の3種類の「授業改善チェックシート」を作成した。授業づくりや授業実践後の振り返りに活用したり、単元全体を教師自身が反省し、次の授業に生かすために活用したりすることで、授業改善に繋がると考えた。

ア 運動の楽しさや喜びを味わう授業づくり「単元編」について

単元計画は、年間計画に配列された一つ一つの単元を、授業を通してどのように展開していくか見通しを立てたものであり、教師が授業づくりを行う際、必ず行わなければならない作業である。この授業改善チェックシート「単元編」に沿って、授業準備（教材研究）を行うことで、単元指導計画ができることがあることになる。新しい単元に入る際に、一つ一つをチェックし、授業づくりに生かし、単元の見通しをもてるよう努力する必要がある。

イ 運動の楽しさや喜びを味わう授業づくり「展開編」について

単元計画に沿って実際に授業展開の前・中・後に、チェックするのが「展開編」である。指導と評価の一体化のところでも述べているように、「指導と評価は別物ではなく、評価の結果によって指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要である。」の考え方のもと、本時の指導目標・内容を明らかにし、その指導目標・内容にあった授業展開を行い、指導した内容を評価するといった、しっかりととした柱を立てて授業が展開される必要がある。また、安全面や体力向上、態度等についても忘れてはならないチェック項目である。

ウ 授業の自己評価チェックシート「総括表」について

総括表は、「単元編」、「展開編」のチェックをまとめたものである。特に、展開編のチェックの積み重ねにより、教師自身の力量の高い部分や、弱点などが浮き彫りになってくる。この反省を次の授業づくりや授業展開に生かすことが重要であり、児童生徒が「運動の楽しさや喜びを味わえる」授業づくりのための貴重な資料となる。

チェック項目については、授業づくりや授業展開に必要な内容が盛り込まれている。経験の浅い教員や若い教員はもちろん、中・高等学校の保健体育科の教員にも、基本に返って活用するなど、以下の点に留意した活用が考えられる。

- ・年度初めのいくつかの単元で活用し、授業づくりの確認を行う。
- ・チェックシートを利用し、学校や個人の指導に応じた内容に修正・変更を加えて活用する。
- ・授業研究等、指導案を作成するときに活用する。
- ・チェックシートを週案や週指導記録簿などに添付し、活用しやすいようにする。
- ・互いの授業観察等で利用する。

【授業改善チェックシート】



単元の
配当時間

年 組

単元名を記入

単元計画を作成する際、チェックします

単元名

○ 単元の配当時間 _____ 時間

○ 前年度又は次年度の配当時間

前年度・次年度 _____ 時間

1 運動の特性を明らかにする

前年度又は次年度に○を記入

2 実態を明らかにする

前年度又は次年度の配当時間

<指導観>
☆教師の願い
★児童生徒に身に付けさせたい力

② 実態を把握しているか

- ・児童生徒の関心、意欲の状況
- ・児童生徒の学習経験の状況
- ・児童生徒の体力、運動技能の状況

3 学習のねらいを明確にする

学習のねらい
(単元のねらい)

学習指導要領の内容

小・中・高(入学年次とその次の年次)

- ① 知識及び技能
- ② 思考力、判断力、表現力等

高(上記以外)

- ① 技能
- ② 態度

4 学習過程を工夫する

学習過程
(学習の道すじ)

練
る

④ 学習指導要領の内容のねらい
を明らかにしたか

3

⑤ 評価規準を明らかにしたか

3

2

⑥ 学習過程(学習の道筋)を
明らかにしたか

- ・ねらい①今できる技で…
 - ・ねらい②高まった力で…
- ※ 詳細は学校体育要覧参照

2

⑦ 指導・評価計画を作成したか

2

5 学習指導を工夫する

学習指導の展開

学習活動と
指導(支援)活動

動
く

⑧ 学習の場を工夫したか

- ・施設、用具の数等の確認

3

6 学習資料を準備する

<自己評価> 3・2・1点で記入

- | | |
|-----------|----|
| 大変よくできた | …3 |
| おおむねできた | …2 |
| あまりできなかった | …1 |

⑨ 次の内容がわかる学習カードを
準備したか

- ・学習のねらいがわかる
- ・学習の道すじがわかる
- ・学習の手がかりとなる資料がある

2

⑩ 単元全体を通して安全面の
配慮をしているか

2

運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくり<展開編>

年 組

- 1 **3** 本時の指導目標・内容を明らかにすることことができたか。
<児童生徒に身に付けさせたいもの>

- 2 **2** 施設・用具の安全確認を行うことができたか。
・見る・触る・ゆらす・たたく
・使用して確認・必要数等

- 3 **2** 規律正しく行動させることができたか。
・学習の約束事・時間・服装

素早い行動・集合・解散・開始時間・運動に適した服装等

顔色・目の輝き・姿勢・返事・笑顔・表情・活動状況・服装等

- 4 **2** 健康観察と状況に応じた指示ができたか。(休息、見学、事故対応)
・授業前・授業中・授業後

学ばせたい内容とのずれは無いか・指導目標に向かっての工夫等

- 5 **2** 指導目標・内容にあった展開ができたか。

脈拍・発汗・練習回数・運動時間・全力を出し切る姿等

<自己評価> 3・2・1点で記入

大変よくできた……3

おおむねできた……2

あまりできなかった…1

- 6 **2** 体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。

互いの会話・笑顔・うなづき・拍手・学習カード等

- 7 **3** 課題解決に向け、協力して活動させることができたか。
・教え合い・認め合い・競い合い
・支え合い(補助)・称え合い

<10項目の合計>

30 パーフェクト

24~29 合格

18~23 あと一歩

0~17 努力を要す

- 8 **2** 個への適切な支援ができたか。

・丁寧な説明・示範・助言・補助
・励まし・称賛・次時への意欲付け

声かけ・個に応じた支援指導・学習カードへの記載等

- 9 **2** 指導目標を達成することができたか。

学ばせたい内容にどこまで迫ったか
(練習やゲームの状況・学習カード等)

- 10 **3** 運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。

運動の特性に触れる授業展開ができたか(表情・笑顔・満足感・発汗・学習カードの内容・記録等授業全体の状況)

授業の自己評価チェックシート総括表

○単元の配当時間 6 時間

○前年度又は次年度の配当時間(前年度) 次年度 8 時間)

子どもたちに「運動の楽しさや喜びを味わわせる」授業づくりのために、
自己評価を行い、次の授業に生かしましょう。

項目	評価	備考
①特性を明らかにしたか。	3	○単元計画づくりを振り返り、何を改善していくべき運動の楽しさや喜びを味わわせる授業づくりができるのかを明確にしていきましょう。 ○この場合は、評価規準を明確にすることが必要。 ○すべてをすぐにパーフェクトは難しいので、一つ一つを改善できるよう、教師同士が情報交換をして授業づくりに生かしましょう。
②実態を把握しているか。	3	
③児童生徒に身に付けさせたい力や教師の願い等、指導観をもっているか。	3	
④学習のねらいを明らかにしたか。	2	
⑤評価規準を明らかにしたか。	1	
⑥学習過程(学習の道すじ)を明らかにしたか。	2	
⑦指導、評価計画を作成したか。	2	
⑧学習の場を工夫したか。	3	
⑨学習カードを準備したか。	2	
⑩単元全体を通して安全面の配慮をしているか。	3	
計	24	※授業改善のために次に生かせること等を記入 毎時時間を振り返ると自分の苦手な面が明確になります。

項目	時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
1 本時の指導目標・内容を明らかにすることができたか。	3	2	3	3	2	3	指導目標が明確である素晴らしい 16 13 13 11 16 13 13 11 14 16 12 15 15 13	健康観察を今後しっかり行う必要有り 個に応じた支援・指導ができるよう努力が必要 運動の特性により触れさせたい				
2 施設・用具の安全確認を行うことができたか。	2	2	2	2	2	3						
3 規律正しく行動させることができたか。	2	2	2	2	2	3						
4 健康観察と状況に応じた指示ができたか。(休息、見学、事故対応)	2	1	2	2	2	2						
5 指導目標・内容にあった展開ができたか。	2	2	2	3	3	3						
6 体力向上の手立てと運動量は十分に確保できたか。	2	1	3	3	3	2						
7 課題解決に向け、協力して活動させることができたか。	3	2	3	3	2	3						
8 個への適切な支援ができたか。	2	2	2	2	1	3						
9 指導目標を達成することができたか。	2	2	3	3	2	3						
10 運動の楽しさや喜びを味わわせることができたか。	2	2	2	2	2	3						
計	22	18	24	25	21	28						138

6 『体育の授業マイスター』県ホームページ動画及びDVDの活用について

近年、児童生徒の体力低下や運動する子と、そうでない子の二極化傾向などが指摘されている。そのような中、「ちばっ子」の体力を向上させ、たくましく成長させるには体育授業の充実・改善を図り、進んで運動や外遊びに取り組む児童生徒を育成することが重要である。

そこで、県内小学校の体育授業の改善と教員の指導力向上を図るため、現在は事業として実施していないが『体育の授業マイスター』の県ホームページ動画及びDVDについて、引き続き活用することも有効である。

(1) 県ホームページ動画の配信

マイスターの実践の中から、運動・動き・技の効果的な指導方法を県ホームページに掲載している。

【県HP>教育・文化・スポーツ>教育・健全育成>学校教育>学校体育>体育の授業マイスター】



(2) 体育授業の記録（DVD）の活用

マイスターの授業等を収録したDVDを貸し出している。視聴を希望する場合は市町村教育委員会に連絡して借りることが可能。

体育授業の記録（DVD）の収録状況

領域	体つくり運動		器械運動系	陸上運動系	水泳運動系	ボール運動系	表現運動系
低学年	体ほぐしの運動①	多様な動きをつくる運動遊び①	器械・器具を使っての運動遊び②	走・跳の運動遊び②	水遊び①	ゲーム①	表現リズム遊び①
中学年		多様な動きをつくる運動①	器械運動⑤	走・跳の運動①	浮く・泳ぐ運動②	ゲーム②	表現運動①
高学年	体力を高める運動③	器械運動⑦	陸上運動②			ボール運動⑤	表現運動④

(表の中の○数字は、収録してある授業の数です。)